

西諸県地域の普及活動

令和7年8月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 8月期子牛郡品評会が開催

18日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年8月期子牛郡品評会が開催されました。

8月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た26頭の出品があり、審査の結果、優等賞に6頭、壹等賞に11頭、貳等賞に9頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は高原町の石山翔平氏出品の「りんふくみつ」号(福晴茂-光圀久-秀正実)、2席は高原町の大濱一文氏出品の「いちか」号(桃白鵬-愛日向-洋紀久)、3席は小林市の立山健二氏出品の「ひかる1479」号(二刀流-耕富士-秀正実)が受賞されました。



【優等賞首席 りんふくみつ号】

2) 普通期水稻生育調査を実施

4日と7日に、関係機関からなる普通作物部会にて、管内の普通期水稻の生育調査を実施しました。今回は、幼穂形成期の草丈・茎数・葉色・幼穂長・病虫害の発生状況の5項目について調査しました。

生育は概ね順調で、草丈は平年より高く、茎数は平年並みでした。今年は7・8月の気温が平年より高く、日照時間も長かったため、全体的に生育ステージが早く推移し、出穂期は平年より2日早い8月20日となりました。

病虫害の発生状況としては、いもち病、ウンカ類は平年並～やや少ない傾向ですが、紋枯病は平年より多い傾向であるため、基幹防除の徹底が必要です。

次回は9月中旬に成熟期調査、11月上旬に収量調査を予定しており、今年度産の状況や来年年作に向けた検討を進めていく予定です。



【生育調査】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

13日に、えびの市において、いちごで就農を希望する方の就農相談に対応しました。継続案件で、これまで検討してきた就農計画の内容が定まってきたことから、今後は青年等就農計画の市の認定に向けた手続きが進められていく予定です。

※就農相談対応 1名1回 (内訳 えびの市：施設野菜1名)

2) 新規就農者育成総合対策経営開始資金(旧：農業次世代人材投資資金)活用者の就農状況等の確認

25日と26日に、えびの市で、27日に小林市で経営開始資金等を受給する新規就農者に対して、面談及び現地圃場における就農状況の確認を行いました。

面談では、認定計画に対しての生産量や売上高の確認、経営上で出てきた現在の課題について個別に確認が行われました。進捗が思わしくなかった就農者に対しては、今後、関係機関と連携し、就農定着に向けたフォローアップ支援や計画の見直し検討を進めていく予定です。

(内訳 えびの市：露地野菜1名、水稻1名、いちご2名、小林市：畜産1名)



【現地圃場での聞き取り確認】

3) 農業者セミナーの開催

①アグリ★ベーシックセミナー第4回及び第5回を開催

6日に第4回、26日に第5回のセミナーを開催しました。6日のセミナーでは、「鳥獣被害対策」について普及センター担当職員が講義を行い、「収入保険」や「園芸施設共済」についてNOSAI宮崎西諸センターを講師に講義をいただきました。26日には「病虫害防除の基礎」について、農大校で行われるリカレント研修の普及センターでのサテライト開催の形で行われました。講座によっては、受講者から、セミナー後にも質問があり、なかには現地での指導も希望する方もおり、有意義な研修会となりました。



【NOSAI宮崎西諸Cによる講義】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 露地野菜生産者及び畑かんマイスター研修会の実施

6日に、小林総合庁舎で露地野菜生産者及び畑かんマイスター研修会を開催し、畑かんマイスターや生産者、関係機関から16名が参加しました。

研修会では、県内の畑かん整備状況、散水での省力や排水対策のポイント、6次化の取り組み等、多岐にわたる研修内容となりました。今後とも、畑かんの利用によるメリットを感じてもらおう研修を行って参ります。



【畑かんマイスター研修会】

2) ほうれんそう栽培講習会

26日に、加工用ほうれんそうの品質と収量向上のため、JAこばやしで講習会が開催されました(12名)。

普及センターからは、栽培暦に沿って、ほ場の準備(ほ場選定、排水対策)、は種から生育期(高温、低温対策)、肥培管理(基肥、追肥、かん水)、についてポイントを説明しました。

その他、新サンフード、タキイ種苗、経済連も出席し、出荷にかかる注意点(異物混入、品種特性、肥料等資材の使い方)について説明がありました。

今作の播種日は、工場の稼働スケジュールに沿って、9月25日からとなり、本格的なほうれんそう栽培が始まります。



【ほうれんそう栽培講習会】

3) さといも採種に関する意見交換

7日に、JAこばやし担当者と採種さといもに関する実態の聞き取りや、生産原価の積算を行いました。西諸県地域は、さといも「石川早生」の採種産地であり、生産された種いもが県内各地へ配布されます。今後は、種いも生産への新規参入を促進するため、さといも分離作業の省力化の検討、採種歩留まりの向上に向けた支援を行います。

(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) セリ前講習会の実施

22～24日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。8月は普及センターから「飼料作物(秋冬作)の品種選択」をテーマに講習会を行い、延べ150名程度の参加がありました。

参加者からは、当講習会を通して新たな品種の作付を考えてみたいとの意見が出ました。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行い、良質な自給飼料の増産を目指していきます。



【講習会に参加する農業者】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちごほ場巡回支援

26日に、JAえびの市管内のいちご育苗ほ場にて、JA営農指導員と個別巡回を実施しました。いちごは、炭疽病やうどんこ病の発生が収量に大きな影響を与えるため、収量向上のためには、特に育苗期の肥培管理や防除が重要です。今回の巡回では、育苗期における炭疽病等の発病状況や生育状況を調査し、順調に育苗が出来ていることを確認しました。9月下旬からいちごの定植が始まりますので、健全な苗を定植できるよう育苗期の防除などの技術指導を引き続き行っていきます。



【いちご育苗ほ場】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 令和7年度 農の事業承継推進大会

20日に、JA・AZMホールにて、令和7年度農の事業承継推進大会が開催され、JAこばやしマンゴー部会の松田部会長が講師の一人として、JAこばやしマンゴー部会の第三者承継に向けた取組について講演をされました。講演後のクロストークでは、新規就農者の確保や承継を進めていく上で重要になるポイントについて等、登壇者が会場からの質問に答える形で進んでいきました。

今後も第三者承継や研修生受入に向けて、関係機関と連携しながら支援していきます。



【講演を行う松田部会長】

2) 小林市果樹農業振興推進対策協議会・JA梨ぶどう生産部会 梨ぶどう品評会

25日に、普及センターにて、小林市果樹農業振興推進対策協議会・JA梨ぶどう生産部会の梨ぶどう品評会が同日開催されました。梨の豊水5点、ブドウのニューピオーネ6点、シャインマスカット5点が出品され、計28名の審査員が外観や食味などについて審査を行いました。審査結果は、豊水が(優等)種子田健太郎氏、(1等)永迫竜矢氏、ニューピオーネが(優等)種子田健太郎氏、(1等)大田純治氏、シャインマスカットが(優等)永迫周一氏、(1等)谷山正人氏となりました。9月25日には、梨の品評会も開催されるため、引き続き関係機関と連携してまいります。



【審査員による審査】

3) JAこばやしマンゴー部会 役員会

26日、普及センターにてJAこばやしマンゴー部会の役員会が開催され、役員7名と関係機関3名が参加しました。今回は、8月上旬に実施した「おてつたび」の内容共有、研修受入に向けた今後のスケジュール及び改植に向けた検討を行いました。役員からは、第2回のおてつたび開催に向けた要望や研修受入についての質問がありました。また、改植については役員の方々からのデータ提供の承認を得ました。

今後も関係機関と連携し、マンゴー部会の支援をしていきます。

4) ぶどう(ピオーネ) アブシシン酸液剤散布後にかかる袋掛け作業の見直し

29日、普及センターにてぶどう(ピオーネ)のアブシシン酸液剤(着色促進剤)散布にかかる袋掛け作業の後倒しについての調査を行いました。結果は、散布後の袋掛けでは、鳥や害虫に食べられたり、傷がついたりしていました。

今後は、今回の結果をまとめて、生産者に共有する予定です。



【散布により着色はよくなる→】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス栽培講習会を開催

19日に、普及センターで開催し、生産者4名、関係機関5名が参加しました。普及センターから、今後の管理として、土づくりや球根冷蔵、定植前後までの留意事項について説明しました。特に、高温対策について遮光・遮熱の方法や大苗育苗技術などを紹介しました。これから、ほ場準備や球根冷蔵が本格化します。安定した収量と品質を目指して、支援していきます。

2) JAみやざきこばやし花卉部会のほ場巡回及び定例会が開催

21日に、生産者3名と関係機関4名が参加し、キク生産者3戸のハウスについて9月彼岸出荷型を中心に巡回し、生育状況と今後の管理について確認しました。普及センターからは、アザミウマ類やハダニ等の防除と接近中の台風12号対策について説明しました。部会では重陽の節句の頃に県知事へのキク贈呈を計画しています。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を支援していきます。



【生産者同士で意見交換】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 西諸県地区茶業振興協議会反省会の開催

29日に、小林市内において、西諸県茶業振興協議会反省会が行われ、茶生産者10名および関係者（JAこばやし地区本部、市、農林振興局、普及センター）が出席しました。

会では、普及センターからチャ炭疽防除の基本、病害虫発生状況や対策の説明を行い生産者の技術向上を図りました。他関係機関からは茶の補助事業説明、情勢や市況等に関する報告が行われました。

今後も、関係機関では生産技術や生産性向上に向けた支援を行って参ります。



【茶業振興協議会会長の挨拶】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 農業経営体支援センターとの連携

25日に、現在の活動状況や今年度の活動計画等の情報を共有し、連携した活動を行うため、こばやし地域、えびの地域の農業経営体支援センターと合同で打ち合わせを行いました。

コンサルに上がる生産者の情報共有や連携した経営・技術支援、新規就農者のフォローアップについて協力していくことで合意しました。

また、経営分析研修の説明と参加者の推薦、JA担当者の参加などをお願いしました。

今後も各経営体支援センターと連携しながら経営支援を行っていきます。

2) JAこばやし夏秋きゅうりほ場巡回

21日に、JAこばやし管内の夏秋きゅうりほ場にて、JA営農指導員、種苗メーカーと個別巡回を実施しました。当地域では7～8月に植え替えを行っており、今回の巡回で概ね順調な生育状況であることが分かりました。引き続き台風や高温などに対応しながら収量を確保できるよう技術指導を行っていきます。



【露地きゅうりのほ場】

3) 第11回令和7年度JAみやざきこばやしメロン部会定期総会

21日に、ゆーぱるのじりにて、標記定期総会が開催され、普及センターは来賓として参加しました。議事では、部会員が減少傾向にある中で部会活動を維持していくために、部会費の増額についての意見が生産者から出されるなど活発な議論が行われました。

普及センターからは、昨年度から実施している天敵利用の実証結果に基づいて修正を行った防除暦の説明を行いました。会の中では、天敵の効果的な活用方法等について質問があり、害虫防除に対する意識が高まっていることが分かりました。今年度もメロンにおける天敵を活用した防除体系の確立を図っていきます。



【表彰される生産者】

4) JAはまゆうマンゴー部会 視察対応

19日に、小林市内でJAはまゆうマンゴー部会へ2園地を案内しました。2園地とも炭酸ガス発生装置を導入した園地であり、参加者は炭酸ガス施与のタイミングや効果、高温対策について等積極的に質問していました。また、普及センターからは、マンゴー部会で8月上旬に実施した、おてつたびについて共有しました。

今後も地域を越えて県内マンゴー産地と連携し、マンゴー栽培の課題に取り組んでいきます。



【JAの担当者の説明を聞く
JAはまゆうマンゴー部会】

5) 西諸県地区果樹技術員会第3回定例会の開催

5日に、JAみやざきえびの市地区本部にて第3回定例会が開催され、関係機関15名が参加しました。室内会議では、生育概況報告や注意が必要な病害虫についての周知等を行いました。また、現地ではえびの市及び小林市須木地区にてくりの着実調査を行いました。着実数としては、平年並かやや少なめでした。

次回の技術員会は9月17日に開催し、ぶどう・梨の食味調査及び、ぶどう・きんかんの高温対策について生産者から聞き取りを実施する予定です。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【くり着実数を数える技術員会メンバー】